

# Tips : PowerPoint のファイルを WebCT で使う

Copyright © EMIT Japan Corporation

## 概要

Microsoft PowerPoint は、日常よく利用されているアプリケーションです。

せっかく今までに作成されてきた貴重な財産を WebCT で利用しない手はありません。この Tips では PowerPoint のファイルを WebCT で利用できる形に変換する手順を説明します。

この Tips は以下の内容を含んでいます。

- 環境・用途に応じたファイルの保存方法
- PowerPoint のファイルを Web ページとして保存する
- PowerPoint のファイルを画像として保存する

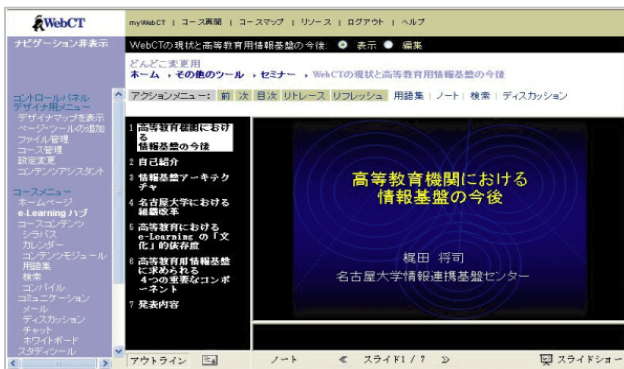


図 1 : Web 形式で保存した PowerPoint のファイルをコンテンツページの 1 ページにしている例

## 環境・用途に応じたファイルの保存方法

### Office がインストールされているか？

Office のファイルをそのまま WebCT に載せても表示させているコンピュータに Office がインストールされていない場合は表示することはできません。どのような環境でも見ることができるように Web 形式でファイルを保存するようにしましょう。

### Internet Explorer か？

### Netscape Navigator か？

ブラウザが Netscape の場合は PowerPoint のファイルを Web 形式で保存したものを WebCT で表示しても文字化けをしてしまいます。これは PowerPoint が Web 形式で保存する際に文字コードを指定して UTF-8 にしたのに関わらず PowerPoint が保存時に勝手に Netscape 用の HTML ファイルを Shift\_JIS にしてしまうためです。

応急処置として、文字コードをブラウザの設定で文字コードを手で変更して表示すると文字化けが解消されます。この方法を利用して PowerPoint のファイルを WebCT で利用する場合は、コンテンツモジュールではなくシングルページ (新しいウィンドウで開くという設定で) として利用することをお勧めします。

また、PowerPoint のスライド個々に画像として保存すれば、見る側は特別な操作なしにファイルの内容を見ることができます。

### トラッキングする単位は？

PowerPoint の個々のスライドへのアクセス履歴を確認したい場合はスライドを個々に画像として保存する必要があります。ただし、PowerPoint で画像として保存すると保存されるファイル名がスライド 1.png、スライド 2.png など、WebCT で利用できない日本語名で保存されるので、注意が必要です。

## PowerPoint のファイルを Web ページとして保存する

### UTF-8 で保存する

ここでは OfficeXP で作成した PowerPoint を文字コード UTF-8 でファイルを保存する手順を説明します。

### 手順

1. Web 形式で保存したいファイルを PowerPoint で開きます。

- 「ツール」メニューから「オプション」を選択します。すると **オプション** ダイアログが表示されます。(図2参照)
- 「全般」タブを選択します。Web オプションをクリックします。すると Web **オプション**ダイアログが表示されます。
- 「エンコード」タブを選択します。「このドキュメント保存する形式 :」で「Unicode (UTF-8)」を選択し、**OK** をクリックします。すると Web **オプション**ダイアログが閉じます。
- 再び **オプション**ダイアログが表示されるので **OK** をクリックします。 **オプション**ダイアログが閉じます。
- 「ファイル」メニューから「Web ページとして保存」を選択します。すると名前を付けて保存ダイアログが表示されます。(図3参照)
- 発行** をクリックします。Web ページとして発行ダイアログが表示されます。
- 「ブラウザサポート」の下で「上記のすべてのブラウザ(ファイルサイズが大きくなる)」を選択します。(図4参照)
- 「コピーの発行先」でファイル名が日本語である場合は変更してください。最後に **発行** をクリックします。Web ページとして発行ダイアログが閉じ、発行作業が始まります。
9. で指定した先にPowerPoint で利用されているファイル群が以下のような構成で作成されていることを確認します。(図5参照)

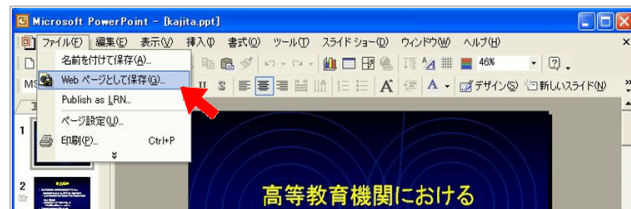


図3:「ファイル」メニューから、「Web ページとして保存」を選択

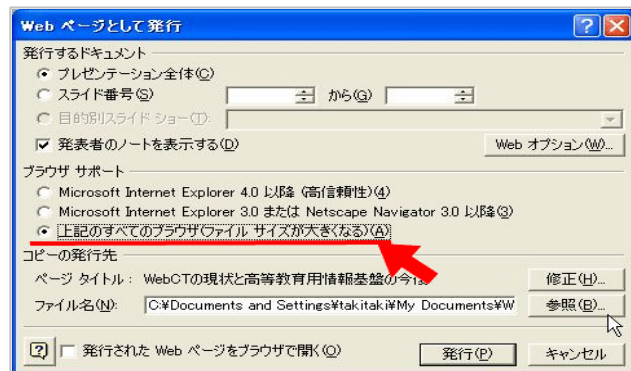


図4:「Web ページとして発行」ダイアログ

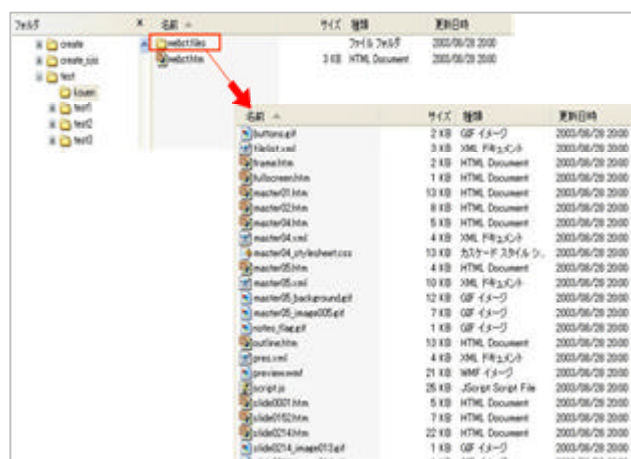


図5:Web 形式で保存した後に作成されるファイルの例

```

----<ファイル名>.html
|
|--<ファイル名>.files----XXXX.html
|
|--XXXX.js
|
|--XXXX.xml
|
|-- . . . (その他多数のファイル)

```

このあとこれらのファイル群すべてを WebCT にアップロードして<sup>1</sup>、追加したい部分に追加するだけでコンテンツとして利用することができます。<sup>2</sup>

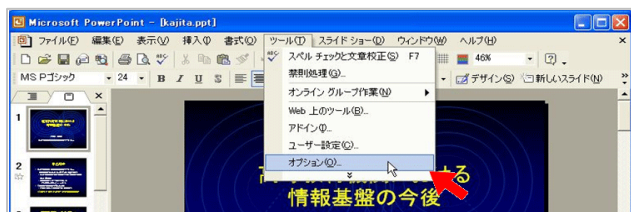


図2:「ツール」メニューから「オプション」を選択

1 複数のファイルをアップロードする方法は、別Tips:「コンテンツをWebCTにアップロードする」をご覧ください。  
 2 コンテンツページとして利用される場合は、別Tips:「PowerPointのファイルをコンテンツページとする」をご覧ください。

## PowerPoint のファイルを 画像として保存する

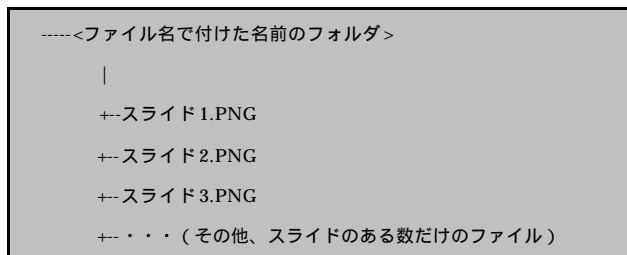
### 1 ページ、1 ページを画像として保存する

ここでは、OfficeXP で作成した PowerPoint スライドを個々に画像として保存する手順を説明します。

#### 手順

- 画像として保存したいファイルを開きます。
- 「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」を選択します。すると **名前を付けて保存**ダイアログが表示されます。

3. ファイルの種類ドロップダウンリストでグラフィック形式<sup>3</sup>を選択します。保存先、ファイル名<sup>4</sup>を選択して保存をクリックします。
4. すると「プレゼンテーションのスライドをすべてエクスポートしますか？それとも、現在のスライドだけをエクスポートしますか？」というダイアログが表示されるので、どちらかを選択してください。(図6参照)
5. 3.で指定した場所に画像としてファイルが作成されていることを確認します。すべてのファイルをエクスポートされた方は、以下のようなディレクトリ構成になっていることを確認します。<sup>5</sup>



このあとこれらファイル群の日本語名を修正した後、すべてをWebCTにアップロードして<sup>6</sup>、追加したい部分に追加するだけでコンテンツとして利用することができます。<sup>7</sup>

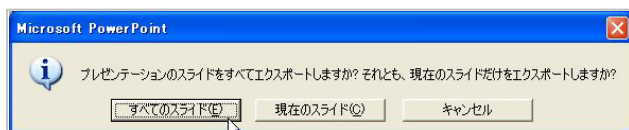


図 6：エクスポート方法の選択ダイアログ

このTips は以下の環境で確認しました。

- サーバ：WebCT3.8 日本語版 / RedhatLinux 7.3
- クライアントOS：WindowsXP
- クライアントブラウザ：IE6.0SP1

(2003年10月20日 瀧 美渚子作成)

<sup>3</sup> GIF形式よりも圧縮率が高くキレイで特許権の問題がないPNG形式をお勧めします。

<sup>4</sup> 複数のファイルを画像として保存する場合は、ここでつけたファイル名がフォルダ名になります。WebCTでは日本語名が利用できませんので、半角英数字の名前をつけてください。

<sup>5</sup> WebCTでは日本語名が利用できませんので、「スライド」という部分は半角英数字に変更してください。

<sup>6</sup> 複数のファイルをアップロードする方法は、別Tips：「コンテンツをWebCTにアップロードする」をご覧ください。

<sup>7</sup> コンテンツページとして利用される場合は、別Tips：「PowerPointのファイルをコンテンツページとする」をご覧ください。